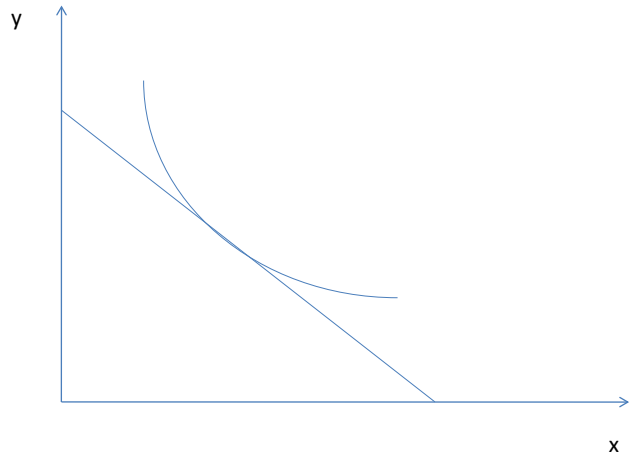
勿凝学問 270

バランス感覚の妙を教えてくれる経済学

2009 年 12 月 15 日
慶應義塾大学　商学部
教授　権丈善一

まぁ、知識なんてもんは教えてもすぐに役に立たなくなるけど、考え方ってもんはそうじゃない――と言って始めた、先日の講義での話。消費者理論、生産者理論、社会選択論の共通点には、まず、制約条件下の極大化行動という考え方がある。要するに、次の図。



制約条件は、消費者理論では予算制約線、生産者理論では等費用曲線、社会選択論では効用可能性曲線と呼ばれ、消費者理論の効用関数は、生産者理論では生産関数、社会選択論では社会的厚生関数と呼ばれている。

ところで、福澤諭吉は、極端な論を言う者をバカ者と同義に考えていて、物事を判断するにバランス感覚の妙を極めて重視している。このバランス感覚というものは、経済学の制約条件下の極大化行動という考え方と共通しており云々……。

だって、x の価値と y の価値の間にあるトレードオフの関係を見定め、意思決定をする。この時、制約条件の端の解は、普通には導かれないのが経済学の考え方なんだからね。

その日の話題は、年金の財政方式だったのだけど、ｘに積立方式、ｙに賦課方式をとるもよし、経済学ってのは、なかなか素敵な考え方なんだよな。僕の財源調達の話とか、いたるところで、このトレードオフの制約条件下での極大化行動というバランス重視の考えが背後に潜んでいることが分かると思うから、僕が書いたのをいろいろと読んでおきな。と言っても、経済学は原理主義とはほど遠い考え方を内在しているのに、極端なことを言う経済学者が多いのは、世界の七不思議なんだよなぁ。みんな、まじめに勉強しすぎてるんじゃないのかねぇ(￣。￣)ボソ…

参考資料

- 勿凝学問とは？
- 「座談会　著作に触れ、確かめる、福澤諭吉の新しさ」『三田評論』2004 年 2 月号（『医療年金問題の考え方――再分配政策の政治経済学Ⅲ』に所収）